

平成 29 年 4 月 21 日

糖尿病が新たに加わりました。

関係者各位

## 第 3 回 Eli Lilly 社 “Innovation Day Japan” 開催について

Eli Lilly 社（以下、Lilly）では、がんにおける創薬新規ターゲット、新規基盤技術及び治療や診断をサポートするデバイスと製剤技術に関し、大学、研究機関、バイオ企業、製薬企業に所属する研究者の方々と近未来的な共同研究を目的として、第 3 回 “Innovation Day Japan” を開催します。

過去 2 年間、2 回に渡り東京にて Innovation Day Japan を開催し、延べ 70 以上の大学、研究機関、バイオ企業、製薬企業様のご参画をいただきました。皆様のご協力のおかげで会議後に次のステップに 30 以上の案件が進むという素晴らしい成果を得、さらに第 1 回開催分の 3 案件につきまして共同研究契約を締結しました(下述)。現在、他案件につきましては CDA（秘密保持契約）、MTA（Material Transfer Agreement / サンプル評価）を締結し、順次最終評価を進めている段階であります。

この結果が示すように、本イベントは研究者皆様のご研究が次のステップへ大きく前進する可能性を秘め、新薬候補物質の上市に向けた研究出口のいわゆる一つのオプションとなります。つきましては、是非本イベントの積極的なご参加をご検討いただきたくよろしく願います。

### 1. “Innovation Day Japan” とは？

研究者と Lilly とのマッチングを目的として開催されます。“Innovation Day Japan” の開催日には、Lilly 米国本社 of 研究所トップである Jan Lundberg 博士、がん領域、基盤技術領域、デバイス領域のトップ研究者 10 名程度が来日し、参加研究者のプレゼンテーションを聴講、討議を行います。Lilly 側から興味の意思表示がされた場合には、当該研究について Lilly との共同研究契約に向けた交渉が開始されることとなります。

時期は 2017 年 9 月 7 日(木)、8 日(金)の開催を予定しております。

### 2. “Innovation Day Japan” これまでの成果（共同研究契約）

研究機関名	国立がん 研究センター	金沢医科大学	大阪大学
分野	進行胃癌	びまん性胃がん	代謝
内容	バイオマーカー探索	適応拡大	病態生理学に関連した肥満の進行プロセスに着目した研究

### 3. “Innovation Day Japan” の開催までのステップ及び応募方法について

“Innovation Day Japan” の開催までのステップは、p5に記載のとおりですが、まずは、下記要領にて応募をしていただく必要があります。

#### 【応募方法】

下記に該当する研究テーマについて、開示可能な情報のみで (Non-confidential 情報ベースで)、5~10枚程度の資料を英語で作成いただき、**5月12日(金)まで**に下記の提出先まで、PDFデータで提出してください。なお、該当大学に置かれましてはVC(ベンチャーキャピタル)投資候補案件、大学発ベンチャーも視野に入れていただけると幸いです。

#### 研究テーマ

##### 1. がん

1)2) がマスト、3)はもし可能であれば

1) 新規の治療方法、バイオマーカー、実験モデルまたは分子標的に関する研究。  
なお分子標的に関しては動物実験で確認されているか、ヒト臨床データとの関連が示されていること。

2) 以下の何れかに該当または応用できるもの。

①がん免疫療法

②シグナル伝達系に作用 (例. K-ras)

③腫瘍微小環境に作用 (例. 血管新生)

④アジアに高頻度な疾患 (例. 胃がん、肝がん、胆道癌、非小細胞肺癌の EGFR 変異)

3) ヒット化合物、動物実験データまたはヒト臨床検体データ。

##### 2. 基盤技術

1)マイクロバイオーム

①微生物叢の操作・培養・解析技術

②日本人関連情報の収集・解析

③プレバイオティクス、プロバイオティクス、合成生物学領域

④自己免疫疾患、糖尿病、神経変性疾患等への治療応用

2)オリゴヌクレオチド

①アンチセンス、siRNA、アプタマー等の核酸医薬品

②ナノパーティクルデリバリー技術

3)ゲノム編集技術及び遺伝子治療

①CRISPR/Cas9 及び改変型 Cas

②遺伝子修飾、調節等の技術、次世代型 AAV ベクター

## 2. 基盤技術（続き）

### 4) 細胞療法

① iPS 細胞及び成体幹細胞による細胞療法技術

### 5) エクソソーム

① エクソソームの機能解析、分泌阻害等

② エクソソームを標的としたがんの診断・治療技術

## 3. デバイス

IoT デバイス、電子部品（センサー、電源、通信など）の小型化技術、医療用アルゴリズム、バイオ製剤の経口投与技術、バイオ製剤の安定性向上技術

## 4. 糖尿病

インスリン - 次世代インスリン（基礎、ウルトララピッド、高濃度、熱安定）  
グルコース感知インスリン、溶解性グルカゴン

インクレチン - 経口インクレチン、多機能インクレチン

インクレチンコンビネーション、次世代インクレチン

血糖降下作用+1 - 体重減少、血圧低下、脂質低下

合併症 - 糖尿病性腎症

人工すい臓、 $\beta$  細胞再生、ペプチド・タンパクの経口デリバリー

### <今後のスケジュール>

5月12日： 研究者の方々の応募資料（開示可能な情報のみ）、5~10枚程度の資料（PDFデータ）を**英語**で作成、ご提出締切り\*。

5月26日： **糖尿病（上述と同じ）**

6月末： 弊社の1次、2次スクリーニング終了、先生方へ結果ご連絡

7-8月： 各研究者及びLilly間で（必要に応じて秘密保持契約後）、Lillyより“Innovation Day Japan”への招待状をご送付

9月7日、8日：“Innovation Day Japan”開催（東京）  
（研究者による20-30枚のPPTスライドによるプレゼンテーション：会議時間は約1時間：予定）

## 提出先・問合せ先

⇒ 各大学、研究所、各会社 ご担当者様

\*産学連携本部に依頼させていただいた場合は  
案件を取り纏めていただけると幸いです。

⇒ Eli Lilly Japan

がん、基盤技術：エクスターナルイノベーションジャパン

糖尿病 →	本田孝雄	E-mail / honda_takao@lilly.com
	前田浩	E-mail / maeda_hiroshi@lilly.com
	藤門範行	E-mail / fujikado_noriyuki@lilly.com
	デバイス：研究開発本部	
	渡邊正樹	E-mail / watanabe_masaki@lilly.com

## Eli Lilly 社について

1876年設立、昨年140周年を迎えた数少ないM&Aを経験していないグローバル大手製薬企業である。創業以来、イノベーションを志向し、新規薬剤の開発に非常に注力している。インスリンの製剤化にカナダのトロント大学と共同、世界で初めて成功し（1922年）、がん分野ではブロックバスター薬剤となった代謝拮抗剤のアリムタをプリンストン大学のテイラー教授から権利許諾を受け上市に成功した経験などがある。ジプレキサ（統合失調症）、サインバルタ（抗うつ剤）、シアリス（ED、前立腺肥大他）など他にも多数のブロックバスターを創出した。主力研究領域はがん、中枢（アルツハイマー、パーキンソン病）、自己免疫疾患、痛み、糖尿病の5つである。